

平成28年度 施策評価表

課・グループ名	消防南幌支署
---------	--------

作成年月日：平成29年10月12日

施策名	①ーb 地域医療の確保（救急体制の確保） 4-1-①ーb
-----	------------------------------

1. 施策の現状分析及び展開方向

政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	4. 健康的で自立した暮らしを支える保健福祉と医療の整ったまちづくり	(1) 充実した医療環境の確立	①ーb 地域医療の確保（救急体制の確保）
①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> ●救命率を高めるため、救急救命士の認定資格者を養成し救急医療体制の強化を図ります。また、将来にわたり救急体制を維持させるため、高度な知識を修得した救急救命士の育成に努めます。 ●医師、看護師及び病院と救急隊が連携することにより迅速な搬送と的確な病院選定が可能になり、患者、家族の不安を軽減することを目指します。 ●町立病院及び3次医療機関との連絡体制を強化することにより重症患者への迅速な処置対応に努めます。 		
②施策の現状と課題	<p style="text-align: center;">現 状</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本町では、栗山町、長沼町、由仁町の四町で一部事務組合を組織し救急業務を行っています。高齢化に伴い急病による救急要請が増加しています。 ●傷病者の搬送は町立病院を基本としていますが、傷病の状態によっては、近隣市町の中核医療機関への搬送も行っています。 ●救急活動は、救急救命士8名を含む18名で行っています。 ●町立病院は救急告示指定病院となっており、休日・夜間を問わず対応しているものの、診療科目が限られているため、十分な救急体制が整っていない状況にあります。 ●救命救急センターへの搬送が必要な重症患者に対し、ドクターヘリを要請しています。 	<p style="text-align: center;">課 題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今後、認定救急救命士等も含め生涯にわたり教育を行い、救急体制の充実強化を図る必要があります。 ●救急救命士の認定項目が追加されたため、新たな認定取得者を養成する必要があります。 （認定項目には、気管挿管、薬剤投与、ビデオ挿管、拡大2行為の4項目があります） ●救急救命士が救急自動車で特定行為をするために、町立病院の医師・看護師等との連携体制が必要です。 ●重症患者を迅速に病態にあった医療機関への搬送を行うため、救急隊と町立病院及び救命救急センターとの連携強化を図る必要があります。 ●救急件数の増加、利用者の高齢化、更に救急救命処置拡大により、高度な知識を修得した救急救命士の育成が必要です。 	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況

① 成果指標	意図、現状と課題のキーワード	まちづくりの成果指標名	数値化				
	救急救命士の処置内容が拡大され、それらの処置を行える認定救急救命士の養成数を成果指標として設定している。 平成26年度までは気管挿管認定と薬剤投与の2項目の認定を成果指標としていたが、平成27年度からはビデオ挿管と拡大2行為（ブドウ糖投与・重症者に対する輸液）が追加され、合計4項目の認定を成果指標（認定4項目各8名、合計32名）としている。	成果指標（総合計画・施策評価）	○	可能			
	A 救急救命士追加資格認定（気管挿管、薬剤投与、ビデオ喉頭鏡、拡大処置）		不可能				
	B 救急救命士養成		未計測				
	代替指標 ※成果指標がない場合		指標の設定				
			可能				
			不可能				
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。							
② 指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
		H25	H26	H27	H28	H28	
A目標	人	14	14	32	32	32	気管挿管認定1名、処置拡大2行為認定1名取得できたため増加となった。
A実績	人	12	13	15	17	17	
A達成率	%	85.7%	92.9%	46.9%	53.1%	53.1%	
B目標	人			0	1	1	救急救命士養成にて、資格取得者1名増加となった。
B実績	人				1	1	
B達成率	%				100.0%	100.0%	
評価視点		評価結果				理由、課題・問題点	
③ 施策の達成状況	A 計画目標に向けて順調に推移（目標達成は十分に可能である）				施策の達成度	講習機関の受入枠が不足しているため、講習・実習の申請をしているが計画通りには進んでいない。長期的な計画の中で関係機関と連携して目標達成を目指す。	
	B 計画目標に向けて概ね順調に推移（目標達成は可能である）						
	C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）				C		
	D 計画目標に向けての進捗は遅れている（目標達成は難しい）						

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類	【必要性】事務事業の必要性	【妥当性】町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果											施策への 貢献度 <高い> <普通> <低い>		
事業 番号	事務事業名	種 類	所 管 課 名	成 果 指 標	評価年度(H28)		事務事業の内容	必 要 性	妥 当 性	事務事業 評価結果 (方向性)		事業費(千円)	
					目 標	単 位						H28実績	H29予算
					実 績								
1	救急救命士拡大処置認定 取得事業	(1)	消 防 南 幌 支 署	①薬剤認定 ②挿管認定 ③2行為認定 ④ビデオ認定	①8	人	・消防学校での講習及び 試験、病院での実習により 認定取得。 (救急救命士資格者の拡大 処置【薬剤投与・気管 挿管・ビデオ喉頭鏡気管 挿管・処置拡大2行為】 の認定の取得。)	II	I	1 現状のまま 継続	240	高い	
					②8 ③8 ④8						①8 ②7 ③2 ④0		282
2	救急救命士養成事業	(1)	消 防 南 幌 支 署	救急救命士資格取 得者数	1	人	救急救命士養成機関にて 受講させ、資格を取得さ せる。	II	II	1 現状のまま 継続	2,070	高い	
					1						1		
年度別施策全体の事業費合計(千円)													
H28事業費											2,310		
H29予 算											282		

②H29に実施した新規事務事業					
	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H29予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果	理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	・平成16年4月から気管挿管、平成18年4月から薬剤投与が救急救命士に 特定行為として認められ、平成27年度以降はビデオ挿管と拡大2行為の 認定取得も加えて、その拡大処置における認定救命士の養成に努めていま す。認定項目の特定行為は心肺停止前及び心肺停止状態の患者を救命するの に有効な手段の一つとされ、この行為を行う場合の医師の指示体制も構築され ています。また、MC(メディカルコントロール)により処置の検証も行 われ、病院との連携強化も成されています。高齢化による救急件数の増加、 重篤疾患の増加等により認定救急救命士及び救急救命士の養成・再教育は必 要な事業であると考えています。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)	
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)	
	事業構成の 妥当性	A

4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)													
①総合評価 (今後の展開、 事業の見直し等) 委員会評価	特に課題とすべき指摘事項はない。				事業の 方向性	事業番号					平成29年度以降 の予算の方向性		
						A							
						B	1	2					拡大
						C							維持
						D							縮小